

和歌山大学に留学された皆様、お元気でご活躍でしょうか。また、日頃より本学の国際交流をご支援いただいている皆様、いつもたいへんお世話になっております。国際教育研究センター（IER）では、皆様に和歌山大学の「今」をお伝えしたく、ニュースレターをお送りさせていただきます。

【4月受入の留学生の状況です】

和歌山大学では、新たに64名の留学生をお迎えし、4月の留学生総数は180名となりました。4月から大学の役員の交替があり、4月22日に行いました新入留学生の歓迎会には、4月から就任された瀧 寛和学長、呉 海元理事が出席し、留学生と歓談しました。瀧学長は、和歌山大学の創立以来、初めてのシステム工学部出身の学長です。呉理事は自らも留学生だった体験があり、留学生の良き理解者です。新入留学生にとって、和歌山での勉学と生活が実り多いものとなることを祈念しています。



フランス（左）、中国（右）からの留学生と瀧学長（中央）



グアテマラからの留学生（中央）と学長、長友先生（左）

【和歌山大学の新規交流協定校】

和歌山大学は、3月にラオス国立大学、ハノイ国家教育大学の2校と大学間交流協定を締結しました。今後、交換留学や教員の交流が活発に行われることが期待されます。

【留学生の日本文化入門クラスの様子をご紹介します】

4月に開講した日本文化入門クラスでの活動をご紹介します。山田佳古（やまだ けいこ）先生が指導される授業では、さまざまな文化体験を授業に取り入れています。4月は季節の果物であるいちごを使って、いちご大福づくりを行いました。

まず、いちごをそれぞれ餡で包み丸い形を作りました。餡を均等に被せてしまい、いちごの形になってしまう留学生もいましたが、先生に教わりながら最後には皆丸い形に仕上げることができていました。



それから班ごとのテーブルで、ダメにならないよう白玉粉に少しずつ水を加えながら混ぜ、砂糖を加えて生地を作りました。電子レンジで生地を加熱し、かき混ぜる、を3回ほど繰り返すと、生地がレンジの中でお餅のように膨れ、留学生からは「おー！」と驚きの声が上がりました。あつあつの生地をちぎって分け、片栗粉をつけながら生地を伸ばし、いちごを包んだ餡をのせ、底を閉じるように包み込むと完成です。留学生達は出来上がったもち生地を不思議そうに触った後、「あつい、あつい」と言いながらもきれいに丸いいちご大福を作ることができていました。

その後、留学生達は抹茶をたてる体験をし、出来上がった抹茶と共にいちご大福をいただきました。初めて作ったいちご大福は、「コンビニで買ったものよりずっとおいしい！」と喜ぶ声が多く、「また家でも作ってみたい。」という声もみられました。



完成！

おいしそうに大福を食べる留学生達の笑顔を見ると、仕上がりは大満足だったのではないのでしょうか。

【スタッフ交替のお知らせです】

2015年3月で、IERのメンバーが替わりましたので、お知らせします。

野田日向（のだ ひゅうが）先生と宮澤かおり（みやざわ かをり）さんが、3月末に任期満了により退職されました。野田先生には実践英語を指導いただいた上に、留学生の良きアドバイザーにもなっていたいただき、宮澤さんには日本人学生の留学相談や欧米圏からの留学生を中心に細やかな相談相手になっていただいていたいました。たいへん残念ではありますが、これまでのご貢献に感謝し、お二人の今後の益々のご活躍をお祈りします。

また、4月からは、これまでご指導いただいた山田佳古先生にフルタイムで勤務いただけることになり、日本語指導、日本文化紹介に一層ご活躍いただけることとなりました。日本語指導体制が強化されることとなり、和歌山大学の留学生の皆さんにとっては吉報です。

【編集後記】

日本語と英語版で発行するニュースレター第2号、いかがでしたでしょうか。和歌山大学での留学生の様子について少しでもイメージが膨らみますと幸いです。帰国された留学生の方々からのアドバイスや、皆様の近況をお寄せいただきましたら、ぜひニュースレターでもご紹介させていただきます。皆様からのご連絡をIER教職員一同、お待ちしております！

【御礼】

発行にあたり、経済学部 19 期ご卒業の安藤敏昭様に英文翻訳のご協力をいただきました
ことを厚く御礼申し上げます。

和歌山大学 国際教育研究センター